

## 成川遺跡第4次発掘調査速報

### A Prompt Report of the Fourth Excavation at Narikawa Site, Kagoshima

竹中 正巳<sup>1)</sup>, 大西 智和<sup>2)</sup>, 鐘ヶ江 賢二<sup>3)</sup>, 松崎 大嗣<sup>4)</sup>, 中摩 浩太郎<sup>4)</sup>, 鎌田 洋昭<sup>4)</sup>, 新垣 匠<sup>4)</sup>  
Masami Takenaka, Tomokazu Onishi, Kenji Kanegae, Hirotsugu Matsuzaki, Kotaro Nakama, Hiroaki Kamata, Takumi Arakaki

<sup>1)</sup> 鹿児島女子短期大学, <sup>2)</sup> 鹿児島国際大学国際文化学部,  
<sup>3)</sup> 鹿児島国際大学ミュージアム, <sup>4)</sup> 指宿市教育委員会

本稿は、2019年8月24日から9月8日まで行われた鹿児島県指宿市成川遺跡の第4次発掘調査の結果の速報である。新たに2基の古墳時代の墓が検出された。それぞれの墓に、1体ずつ埋葬されていた。

**Keywords** : Narikawa site, protohistoric Kofun period, human skeletal remains  
**キーワード** : 成川遺跡, 古墳時代, 古人骨

#### 1. はじめに

鹿児島県指宿市山川成川に所在する成川遺跡は弥生時代から古墳時代にかけての埋葬遺跡である。1957年(昭和32年)に発見され、これまでに3回の発掘調査が行われた(河口ほか, 1958; 田村編, 1974; 鹿児島県教育委員会, 1983)。300体を超える人骨に加え、鉄製の刀や剣などおびただしい数の副葬品が見つかっている。

南九州では、古墳時代の人骨の形質に地域差が指摘されている。宮崎平野部と内陸部の地域差、薩摩半島南端から南西諸島にかけての南島の人々の存在である。この立論の根拠の一つになった薩摩半島南端の成川遺跡から出土した人骨の形質であるが、それは発掘調査時の現場での計測や観察所見によるものである。過去の調査で300体以上も出土したにもかかわらず、遺存状態が非常に悪いため、成川人骨の形質の再検証は不可能であった。

薩摩半島南端の古墳時代人の形質の特徴を探る上で鍵となる成川遺跡を営んだ人々の人骨の検出を目指し、2019年8月から9月にかけて、竹中正巳らは新たに同遺跡の発掘調査を行い、古墳時代の土坑墓2基(2019-1・2号墓)を発見した。本稿は、この第4次発掘調査の成果の速報である。

#### 2. 調査成果

第4次調査は、2019年8月24日から9月8日までの16日間行われた。6ヶ所のトレンチを設定し、3トレンチから1基(2019-1号墓)、5トレンチ(2019-2号墓)から1基の古墳時代の墓が検出された(図1・2)。2019-2号墓の発見により、墓域の範囲が、これまで考えられたよりも東南側に広がることがわかった。

2基の墓はいずれも土坑墓で、1体ずつが埋葬されている。2019-1号墓の人骨の遺存状態は悪い。それに対し、2019-2号墓の人骨の頭蓋のそれは、比較的よい。仰臥伸展位で埋葬されていた。

#### 3. おわりに

今後、今回発掘調査で出土した遺物、遺構や古人骨を整理し、概要報告、発掘調査の正式報告を行っていきたい。

#### 謝辞

発掘調査の際、藏菌治己指宿市文化財保護審議会会長をはじめ成川集落のみなさまには助言や助力を多数たまわった。また、指宿市教育委員会には、調査の便宜を図っていただいた。深甚の謝意を表する。

本発掘調査はJSPS 科研費 JP19H05352の助成により行われた。

#### 引用文献

鹿児島県教育委員会 編 (1983) 成川遺跡。鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書24。鹿児島県教育委員会。  
河口 貞徳, 河野 治雄, 重久 十郎 (1958) 成川弥生式群集墓。考古学雑誌43:34-42。  
田村 晃一編 (1974) 成川遺跡。埋蔵文化財発掘調査報告第7。文化庁。吉川弘文館。

(2019年11月26日 受理)



図1 成川遺跡2019-1号墓 (3トレンチ)



図2 成川遺跡2019-2号墓 (5トレンチ)